

テーマ

フランス語を通して 必要な情報を得る方法

適用
分野

学習者の興味に沿って自律学
習を促す指導法、プロジェクト
学習研究

研究
名称

インターネットを活用した「プロジェクト学習」

氏名
所属

中村典子 教授
全学共通教育センター

内容

●特徴

フランス語の学習を有効に進めるためには、「読み」「書き」中心の伝統的な教授法だけではなく、リアルタイムで入手できるフランス語のニュース、さまざまな形で入手可能なインターネット上の情報（画像・映像・音声情報）などを適宜活用するのが効果的である。個々の学習者の興味を引く情報、フランス人がよく利用する実用的なサイトの情報を教材として取り上げれば、楽しみながら有益な情報を得られるため、学習の効果は大きい。学生時代にフランス語での情報収集に慣れれば、社会人になってからも役立つだけでなく、生涯教育の一助となるに違いない。

●研究内容

大学の授業時間内だけでは、フランス語能力を十分に伸ばすことは難しく、学生には自律学習が求められる。しかしながら、どのように学習するのが効果的であるのかは、授業中に学生に体得させておく必要がある。フランス語の基礎学習を終えた中級・上級の学生には、各自の興味に沿って語学学習をサポートするように筆者は心掛けている。学生は、自分が興味を持っているテーマ（例えば、スポーツ、ファッション、料理、音楽、芸術など）に関して、フランス人向けの「生のフランス語」

を読解・聴解し、利用できるようになりたいと考えている。各自の好きな話題であるため、「好きこそ物の上手なれ」ということで、皆、熱心に取り組み、驚くほどの成果を上げている。

「上級フランス語I」の授業では、プロジェクト学習のひとつとして、受講者が個別に時間をかけて作成したフランス語のパワーポイント（スライド10枚程度）の資料（教員の事前チェックを受けたもの）をもとに、20分～30分間の「フランス語の模擬授業」を、クラスメイト向けに実施してもらっている。昨年度は、フェンシング部の学生の発表を通して、フェンシングの試合では、日本でもどこでも、世界中で「フランス語による指示」が用いられていることを知ることができた。発表者は、フェンシングに関するフランス語サイトを利用し、自分たちの練習試合の動画を作成した上でフェンシングの試合で使われるフランス語表現を解説してくれたので、クラス全体で楽しみながら学習し、共有することができた。

このように、インターネット上のフランス語の情報をうまく活用することで、学生の自律学習を促し、学生が自分でまとめた内容を教員がチェックした上で、クラスメイト向けに「フランス語の模擬授業」を実施することを通じて、学生は、「自ら学ぶ姿勢」と「ひとりで発表する自信」の両方を身につけることができている。

キーワード

フランス語、プロジェクト学習、マルチメディア、ICT

連携方法

■ 講演 □ 研修 ■ 研究相談 □ 学術調査 □ コメント ■ 共同研究